

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

2015年度

事業報告書



持続可能な社会とは？

High Moon

「持続可能な地域社会」を目指して

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会（以下、「協会」という。）は、2001年2月に設立されました。協会は現在、京都市の環境学習施設である京都市環境保全活動センター（愛称：京（みやこ）エコロジーセンター、以下、「センター」という。）の指定管理者等の活動を通して、様々な主体とのパートナーシップにより「持続可能な地域社会」を目指して、事業運営を行っています。

本報告書は多くの方々に事業の内容や、その果たす役割、成果をわかりやすく理解いただくためのツールとして作成しております。

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 2015年度 事業報告書

対象期間 ▶ 2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）の事業を中心に、過年度からの継続的な事業や次年度に向けた事業、将来の見通し・予定などについて記載しています。

発行日 ▶ 2016年9月

発行 ▶ 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

もくじ

理事長のメッセージ	2
協会の概要	3
環境学習・環境保全活動支援事業	4
地域環境活動支援事業	23
国際事業	25
講師派遣事業	28
その他事業	29
協会組織図・事業運営体制	31
年表	33
協会紹介	34

京エコロジーセンター

いろいろな主体が学び、育つステージの提供 PROJECT1

- 1-1 館内・館外の環境学習プログラム開発、実践6
- 1-2 環境ボランティアの育成・支援9
- 1-3 子どもから大人まで環境人づくり11

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携 PROJECT2

- 2-1 地域コミュニティにおける
環境保全活動支援・連携 13
- 2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への
支援・連携 14

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流 PROJECT3

- 3-1 情報発信・広報対策 15
- 3-2 イベントの企画と実施 17

- 地球温暖化防止にむけて 19
- 資料集 21

理事長のメッセージ

「新しい活動と共に、さらに充実した事業を！」

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

理事長 高月 紘

当協会は、協会として発足以来3年目を迎えています。2015年度はセンターへの来館者がはじめて年間10万人を超えました。これも、市民のセンターへの認知度と期待が徐々に高まって来た結果だと協会のスタッフ一同は感謝しています。協会の事業内容も指定管理事業であるセンターの運営に加えて、京都市の委託による「エコ学区事業」やJICA（国際協力機構）の委託による「国際事業」など、新しい事業が活発化し始めました。当協会が進むべき方向性に関しては、総合戦略検討小委員会で2年間にわたり議論を重ね、当面、次の6点に注力することになりました。

- ①地域社会との連携を深める
- ②パートナーシップをこれまで以上に
- ③人材育成
- ④京都という特性を生かし、全国、世界への波及
- ⑤環境学習ツール・プログラム開発力の強化
- ⑥発信力の強化

そして、具体的な取り組み方法に関しては、テーマごとに作業部会を設置し、事業を展開しながら方策をまとめていくことになりました。

また、時を同じくして、京都市では「環境教育に関する基本指針」の策定や「南部クリーンセンターでの環境教育の推進」に取り掛かると聞いています。環境教育・環境学習に関しては当協会としては、これまでの実績と蓄積があるので、京都市のこれらの取り組みに何らかの貢献ができるのではないかと考えています。いずれにせよ、当協会は今後も新しい活動も展開しながら、さらなる事業の充実を図りたいと考えています。



協会の概要



当協会は、持続可能な社会（低炭素社会・循環型社会・自然共生社会）を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的に設立された法人です。

この目的の達成のために、環境意識の普及・啓発、環境情報の発信、環境保全に関する調査・研究、環境教育及び人材育成、環境保全のための市民、事業者等との連携・支援、環境意識の向上のための国際的な連携・支援、環境保全活動に関する施設の管理運営等を、市民・事業者・行政・教育機関とのパートナーシップに基づき行っていきます。

■ミッション

持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人と人、様々な団体をつなげる。

- 私たちは、環境ボランティアを始めとした、人材育成講座を中心に展開し、環境保全活動を始めるベースを身に付けた人を増やし、実際に活動の場を提供し、自主的に活動を展開できるスキルを身に付ける支援をします。
- 私たちは、活動する場が増えるよう、京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、多くの人材が自主的に活動を展開し、個人や団体の活動の輪を拡げることがを支援します。
- 私たちは、様々な場所で展開される新たな環境保全活動を充実したものにするため、育成した人材が携え、様々な場所で展開されていくようなプログラムを開発します。
- 私たちは、多くの場所で環境保全活動が展開されていくために、人材育成・支援、活動の場づくり、ソフト開発で得たノウハウ、成果を国内外に発信します。

■ビジョン

- 1: 京都における環境保全活動に参加・参画する人の輪を広げ、毎年多くの環境人材を輩出しています。
- 2: 京都を中心とした地域社会、NGO、事業者、行政、教育機関との連携を密にし、各主体を有機的に結びつける「ハブ」になります。
- 3: 活動に活用される環境教育プログラムなどのソフト開発と普及の役割を担っています。
- 4: 私たちの活動の成果やノウハウを世界に発信し、国際的にも環境教育・環境保全活動の推進に働きかけられる存在になります。



環境学習・環境保全活動支援事業

京都市の環境学習施設「京エコロジーセンター」の指定管理業務を行い、様々な環境学習プログラムを展開しています。

地域環境活動支援事業

京都市の「エコ学区に係る学習会等支援業務」を受託し、地域コミュニティの相談窓口「エコ学区サポートセンター」を運営しています。

国際事業

これまでの事業で積み重ねたノウハウを、海外での環境保全活動推進に役立てるため、研修受け入れや技術移転を行っています。

講師派遣事業

環境学習、環境をテーマにしたワークショップ、セミナー等へ、当協会の職員を講師として派遣しています。

その他事業

環境学習施設運営やボランティア制度構築をご検討中の方々向けに、運営ノウハウの提供や制度設計のコンサルテーションを行っています。

環境学習・環境保全活動支援事業

将来像及び実現のための事業分野と 方向性・事業プロジェクト一覧

京エコロジーセンターの将来像

「持続可能な地域社会」の実現に向け、多くの国内外の子どもや大人、事業者、学生、NPO が集い、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を担う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」になっている。

いろいろな主体が学び、育つステージの提供（人づくり、場づくり、仕組みづくり）

【方向性】

- ◆ センター独自の楽しい環境学習プログラムを NPO、事業者、専門家等のパートナーシップにより開発する。
- ◆ 技能や知識を持った専門スタッフや環境ボランティアが、その場に応じて学習プログラムを実施する。
- ◆ センターや地域で活動する多様な環境ボランティアを育成する。
- ◆ 子どもや親、教師、事業者などの「大人」を対象とした環境学習の機会を設け、繰り返し参加できるようにし、環境意識の向上をはかる。
- ◆ 市内の多様な自然環境や環境関連施設を活かして、京都市全域をフィールドとした活動を実施する。

PROJECT 1

- 1-1 館内・館外の環境学習プログラムの開発、実践
- 1-2 環境ボランティアの育成・支援
- 1-3 子どもから大人まで環境人づくり

いろいろな主体による環境保全活動への支援と連携（支援・連携する場）

【方向性】

- ◆ 地域で環境保全活動を進める時に、必要な支援を受けたり連携できるような拠点となる。
- ◆ 環境保全活動をしている人たちの交流の場や機能を提供する。
- ◆ 環境に関心のある人や環境保全活動をしてみたい人たちが必要な情報を入手できる場や機能を提供する。

PROJECT 2

- 2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携
- 2-2 NPO をはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

持続可能な地域社会への提案、情報発信と交流（発信する場）

【方向性】

- ◆ 京都市の市民、学生、NPO、事業者、大学等教育研究機関、行政等のパートナーシップによる協働により、先進的な調査・研究・モデルプロジェクトの支援を行う。
- ◆ センターの活動や成果を、様々な方法や機会を通じて日本全国や世界に発信し、交流する。
- ◆ 世界や全国の環境に関する情報を収集し、市民にわかりやすく発信する。
- ◆ 広く市民に開かれた、環境コミュニケーションの場や機能を提供し、環境やセンターに関心のある人を増やす。

PROJECT 3

- 3-1 情報発信・広報対策
- 3-2 イベントの企画と実施

みんなで
遊びに来てね!



イメージ
キャラクター
「ちきゅまる」

見て、触れて、感じる 体験型環境学習施設

京エコロジーセンター

京エコロジーセンター（通称：エコセン）は、「地球温暖化防止京都会議（COP3）」を記念して、2002年に開設された環境学習や環境保全活動の輪を広げるための拠点施設です。

地球温暖化やごみ、水、電気などをテーマにした体験型で学べる展示やかんきょう図書コーナー、屋上ビオトープ等があり、建物自体もエコな展示となっています。環境ボランティア「エコメイト」が分かりやすく館内をご案内します。また、年間を通して楽しみながら環境問題を学び、考えるイベントも開催しています。ぜひ皆さんでお越しください。



〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町 13
【tel】 075-641-0911 【fax】 075-641-0912

●アクセス

京阪電車「藤森駅」下車西へ徒歩約 5 分
地下鉄・近鉄「竹田駅」下車東へ徒歩約 12 分
市バス 105・南 5・臨南 5・南 8
「青少年科学センター・京エコロジーセンター前」
下車南へ約 2 分

●開館時間

9 時～ 21 時
(1・2 階展示は 17 時まで)

●休館日

木曜日
(祝日の場合は翌平日)



* COLUMN *

コラム

年間来館者『10万人』達成!! 京エコロジーセンター開館以来、13年目にして初めて

センターの年間来館者数が、2002年の開館以来、初めて10万人を突破しました。記念すべき10万人目の来館者は、3月28日に来館された滋賀県近江八幡市の金城麻利子さん(36)と亜美ちゃん(8)親子で、この日が初来館とのことでした。記念品として、職員からセンターイメージキャラクター「ちきゅまる」の文房具セットやエコバックなどをプレゼントしました。

2014年7月18日には、開館通算100万人を突破したばかりですが、2015年度も続けてうれしい結果となりました。

これからも多くのお客様に来館いただき、少しでも「エコの輪」が広がっていくきっかけとなるセンターを目指し、職員一丸となって取り組んでいきます。





いろいろな主体が学び、 育つステージの提供 (人づくり、場づくり、仕組みづくり)



1-1 館内・館外の環境学習プログラム開発、実践

2015年度 成果・到達目標

幅広い年齢層を対象に館内外において、体験を通じた気づきから行動につながる体系だてた環境学習プログラム及びツールが充実している。さらに、参加者のみならずスタッフも学ぶことのできる場づくりが行われている。

2015年度 結果

プログラム開発では、幅広い年齢層の中でも特に多い来館者層である親子（幼児）、子どもをターゲットに、ちきゅまるひろばの新規プログラム開発や京都市内の小学校向け学習（以下、「センター学習」という。）の改定を行ったが、すべての年齢層を対象にしたプログラムの完成には至っていない。また、展示部や団体見学部の環境ボランティアと協働して企画展やツールを企画・作成・活用することで、参加者だけでなくスタッフも学ぶことのできる場が作られている。

団体見学プログラム対応・調整

団体見学では、国内外から様々な団体の見学受け入れを行い、地球温暖化の原因であるCO₂をライフスタイルの中でどのように減らしていくかを考え、行動することを来館者に伝えています。2015年度の年間受け入れ件数は、団体見学が183件5,859名、センター学習は132件3,944名、合わせて315件9,803名の受け入れを行いました。

また、出前授業は京都市内の小学校向けに4件実施しました。



小学生への環境学習の様子

プログラム開発 / ちきゅまるひろば

小学4年生向けセンター学習「ごみへらし隊」をリニューアルし、学校での学習により活かせるようにしました。また、学校での環境教育を推進するために、京都市教育委員会と協働で全校種教職員を対象に環境教育研修講座を開催しました。さらに、日曜日・祝日（夏休み期間は毎日）にはスタッフによるミニプログラム「ちきゅまるひろば」を89回開催し、733名が参加しました。それに合わせて2015年度は新規プログラムの開発にも取り組みました。



ミニプログラム「ちきゅまるひろば」の様子

環境副読本

小学4年生、5年生、中学生向けの3種類の環境学習に役立つ環境副読本を作成し、京都市内の全小中学校に配布しました。総合的な学習の時間はもちろん、各教科内で環境をテーマに学習する際に活用されています。また、小学5年生向けの環境副読本には、各テーマのインタビュー記事の掲載とあわせて、学習の補助教材として活用できるインタビュー動画を作成しました。

環境副読本インタビュー動画：<http://www.miyako-eco.jp/advice/>



環境副読本

展示

エントランスを賑やかにすることを目的に、ハイムーン氏の環境マンガ『意識と行動』を用いた展示「わかっちゃいるけどやめられない」を設置しました。また、環境ボランティアグループ「展示部」では、初めて来た来館者が館内の展示や屋上を見学したくなる仕掛けとして「エコセンサイコロ」展示を作成し、エントランスに設置しました。エコセンサイコロの指令にはブラックボックスの中身を当てるクイズもあり、来館者だけでも楽しめるように工夫しました。



展示部作成「エコセンサイコロ」完成時の様子

企画展示・関連イベント

2015年度の公募型企画展は、企業やNPOなど、6団体と共同主催で開催しました。この他に、センター独自では、夏休み期間には木をテーマに「エコ住宅素材展」、12月には「環境カレンダー原画展」を開催しました。2月からは環境ボランティアグループ「展示部」企画の「あそべる展」を開催し、遊びながら環境について学ぶ機会を提供することが出来ました。



エコ住宅素材展関連イベントで家を組んでいる様子

開催期間	タイトル (共催団体名等)
4月20日～6月30日	「エコなかみしばい展」
4月29日～6月30日	「最新!スマートハウスの省エネ展」 (パナソニック株式会社 エコソリューションズ社)
6月1日～6月22日	「(第12回) 京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展示」 (京都市環境政策局環境企画部環境管理課)
7月24日～9月23日	「第12回エコ住宅素材展～木と私たちの住まい～」
8月5日～8月31日	「(第12回) 京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展示」 (京都市環境政策局環境企画部環境管理課)
8月8日～9月27日	「電車のエコを知ろう!」(京阪電気鉄道株式会社)
10月23日～11月30日	「エコメイト16期生募集コーナー」
11月10日～11月17日	「第31回京都まちとみどり写真コンクール入選作品展」 (京都府都市計画協会)
11月28日～1月31日	「いちばん新しいCOPのはなし&マンガで見る世界の国と温暖化展」
12月1日～12月19日	「鹿肉を食べよう!ジビエ肉を食べよう! ～二酸化炭素排出抑制の視点から～」(株式会社野生復帰計画)
12月5日～12月20日	「もったいない!で国際協力」 (NPO 法人アクセス-共生社会をめざす地球市民の会)
12月9日～1月31日	「環境カレンダー原画展～ひかりあればみどりあり～」
2月14日～4月13日	「あそべる展」

様々な対象に合わせたプログラム開発を目指して

2015年度重点事業の一つであるプログラム開発では、主に「ちきゅまるひろばの新規プログラムの開発」「小学4年生向けセンター学習のリニューアル」を行いました。

「ちきゅまるひろば」が始まって4年が経過し、プログラムの本数が増えてきたため、テーマごとに分類を行いました。その結果を踏まえ、今まであまり取り上げていなかった資源やエネルギーがテーマのプログラムを、新たに5つ作成しました。また、参加率の高い年齢層を分析した結果、幼児の参加が多いことがわかり、新しいプログラムでは、幼児でも楽しんで学べる内容になるよう心がけました。

ごみの減量について学ぶ小学4年生向けセンター学習では、プログラムを実践している環境ボランティアへのアンケート調査や、小学校で行われている環境学習の現状分析などを行った上でリニューアルを行いました。分析した結果を取り入れることで、学びがより深まり、さらに実践につながる内容になりました。



遊びながら環境について考える、企画展示「あそべる展」を開催

環境ボランティアグループ「展示部」が企画し、企画展示「あそべる展」を2016年2月14日（日）～3月30日（水）に開催しました。この企画展示では「あそび」をテーマに、普段の生活に直結した「食べ物」に関連した環境問題や、生活の中で使う「水」についての展示物を新たに作成し、来館した方々が身近な環境問題について考えるきっかけづくりを行うことを目的としました。

「ちらし寿司をつくってみよう!」コーナーでは、ひな祭りに合わせてちらし寿司を切り口に、具材それぞれの輸入量や、どこの国からの輸入が多いか等、難しい内容を楽しく見ることが出来るように、おままごとが出来る展示物を作成しました。「水の循環すごろく」では、展示部で過去作成した水の循環に関するパネルをもとに、すごろくのマスの内容を考え、生活の中での水の使い方や、水の循環について楽しみながら分かる内容にしました。このように展示部メンバーのアイデアが詰まった企画展示となり、多くの子どもが「あそび」を通して環境について学ぶことが出来る内容になりました。





1-2 環境ボランティアの育成・支援

2015年度 成果・到達目標

新規養成講座やエコメイト活動 3 年間およびその後の京エコサポーターとしての地域活動までを見据えた活動・研修などのサポート体制が整っている。

2015年度 結果

- ・地域活動のサポート体制として、サポーター同士が地域等での活動に関する情報交換を行うことを目的とする「サポーターの会」を実施した。
- ・2015 年度策定された協会の中長期事業計画の方向性をもとに、2016 年度以降のボランティア制度について話し合う「ボランティア制度検討作業部会」を開催し、その中で、京エコサポーターの役割を「センターやエコメイトをサポートすること」と整理した。これまでサポーターは地域での環境活動を行うことを前提とし、そのための事務局のサポート体制を検討してきたが、今後は基本的にセンター内のボランティア活動に注力することとなった。これらボランティア制度の見直しに伴い、各種研修やボランティアマネジメントの評価体制について整理した。

エコメイト養成講座

本講座は、来館者とのコミュニケーションを図るために必要な知識、技術を習得することを目的とした講座で、センターの環境ボランティアとして活動するために、受講を必須としています。講座は、ボランティア活動の基礎、グループコミュニケーション、環境問題の基礎、環境学習プログラムの基礎・企画・実践等の座学及び実習を含んでおり、2015 年度は 12 月～3 月の間に計 6 回（7 日間）開催しました。（受講者 21 名、登録者 19 名）



養成講座にて
講義を受けている様子

ステップアップ研修

環境ボランティア活動がより充実したものとなるよう、活動年数に合わせて体系的に活動をする上で必要な知識や技術を習得することができる研修を企画・実施しています。2015 年度は、環境問題の知識を得るためのものや、来館者に対する効果的なコミュニケーションの取り方、環境学習プログラムの企画の方法など、様々なテーマで研修を 11 回実施し、その内 2 回は環境ボランティアだけでなく一般参加も可能なオープン講座として開催しました。



ボランティアがコミュニケーションの
やりとりについて受講している様子

マネジメント全般

環境ボランティアは、展示の案内・解説、環境学習プログラムやイベントの企画・実施を通じて環境に配慮した暮らしを来館者と一緒に考え、広める役割を担っています。そのような活動をより活発にするために、活動意欲の維持・向上（全体マネジメントの会）、活動における不安解消・課題解決（ボランティア全体ミーティング）等を行いました。また、ボランティア制度検討作業部会を実施し、2016 年度以降のボランティア制度について見直しを行いました。



全体ミーティングでボランティアが
意見を出している様子

ボランティア制度検討作業部会

2015年度は、センターの環境ボランティア「エコメイト」の活動における、一つの転換期となる1年でした。環境ボランティアの育成・支援事業は、当協会の中長期計画における【人づくり】における中心的な事業であり、新たに策定した中長期事業計画と密接に関連するからです。

そこで、中長期事業計画の方向性が明らかになった後、外部の専門家や有識者・京都市・環境ボランティア等、7名の委員を迎え、12～2月にかけて「ボランティア制度検討作業部会」を4回実施しました。ここでは、2016年度以降のボランティア制度について、事務局から提案し、委員の方々に様々な立場や経験からの意見を出していただくという形で進行了。その結果、“ボランティアの養成”から“活動マネジメント”、“エコメイト修了後のビジョン”など、ボランティアに関する全てを議論することができ、より市民の主体性を発揮でき、よりセンター機能を充実させる、新たなボランティア制度を構築することができました。



パートナーの声

施設ボランティア交流会

2016年1月27日に開催した「施設ボランティア交流会」の企画に参加しました。これは関西の様々な施設のボランティアが会して交流を図るもので、今回は奈良国立博物館での開催でした（主催：京エコロジーセンター、共催：奈良国立博物館）。参加者155人で、前半は6団体によるボランティアの事例発表、後半は各団体が6人毎に分かれてグループ交流を行いました。

事例発表は各々特長を出し、エコセンはボランティア部（愛称：ボラリンクラブ♡）がセンターのボランティアの仕組みについて紹介しました。後半の交流では各団体の日常の喜びや悩み等について話し、ここで私は日常の活動の中で比較的自由度の高い環境にいることが感じられました。

結論として、エコセンは教育、活動、フォローアップ等のシステムがよく整備されていることを認識しました。また、参加をしてみて同じボランティアとしてそれぞれ環境の異なる者同士の交流が日常の活動に活用可能な点が多いことも感じました。



荒川 佳夫 さん
京エコロジーセンター
環境ボランティア





1-3 子どもから大人まで環境人づくり

2015年度 成果・到達目標

環境教育・環境保全活動を行う上で必要な知識・スキルを身につける講座が行われ、講座を修了した人々がセンターをはじめとする様々な主体によるフォローアップ・活動支援を受けて、環境リーダーとしての活動を生み出し、社会に対してアクションを行っている。

2015年度 結果

各講座の修了生又は参加者が、それぞれの家庭や地域の中で環境を意識した行動や活動を始めている。

講座修了後のフォローアップや活動支援については十分にはできていないが、修了後に実践につながることを見据えたうえで講座内容を企画した。

エコそら屋上

屋上の田畑やビオトープを活用し、「自然や食の循環と暮らしとのつながり」を学ぶことができる場を作っています。定期的に草刈や池の管理作業、生物調査・記録を行い、その結果をもとに案内板や生きものクイズを設置して、より多くの方に屋上を訪れてもらえるようにしました。また、小学1～4年生とその家族を対象とした通年プログラム「エコそらキッズ」やイベント「生きもの探偵団」を環境ボランティアと共に実施しました。



屋上の生きものを紹介する掲示板を製作している様子

環境教育リーダースタートアップ講座

環境教育実践の担い手を育てるために全6回の連続講座を実施し、16名の修了生を輩出しました。2015年度は「子どもと関わる大人」を対象に、子ども向け環境教育のノウハウについて学べるよう、自然体験やまち歩き、環境学習プログラムづくりなどをテーマに、講義だけでなく体験やワークショップなどをまじえた実践的な講座内容としました。事後アンケートでは、7割の受講生が環境教育に対するスキルが向上したと回答しました。



受講者の展示解説実践の様子

自然エネルギー学校・京都 2015

地域における自然エネルギー普及につながる人材育成とネットワークづくりを目的に、座学やワークショップ、先進地視察を取り入れた、全4回の講座を開催しました。特に2015年度は、FIT制度の改正に合わせ、太陽光発電だけにとどまらず、小水力やバイオマス発電にもテーマを広げた内容としました。受講生同士のつながりが生まれているほか、過去の受講生が各地で自然エネルギー普及に関わる事例が生まれてきています。

※ FIT：再生可能エネルギー固定価格買取制度



岡山県西粟倉村の小水力発電所視察の様子

大学生インターンシップ受け入れ

インターンシップでは、大学生 2 名を受け入れました。夏休み期間を中心に、来館者対応やイベントのサポート、「ちきゅまるひろば」の企画・実施など、センターの様々な業務を行いました。また、京都市環境基本計画策定に向けた市民向けワークショップにスタッフとして参加し、グループファシリテーターを務めました。こうした体験を通して、環境教育やファシリテーションなど様々な知識とスキルを身につけた人材を育成しました。



学生企画の「ちきゅまるひろば」の様子

かえっこバザール

おもちゃの交換会「かえっこバザール」を年間を通して 5 回開催しました。2015 年度は、リピート参加している子どもたちに名札を用意し、職員やボランティアがより深く関わられるよう工夫をしました。また、センターの魅力をより知ってもらえるように館内見学ツアーや紙芝居の読み聞かせなど、スタッフによるオリジナルプログラムを毎回実施しました。9 月には、京都市市民防災センターで開催された「イザ!カエルキャラバン」の運営協力も行いました。



おもちゃを選んでいる様子

職場体験受け入れ

京都市教育委員会による「生き方探求・チャレンジ体験」の受け入れを行いました。2015 年度は 5 校 16 名の生徒を受け入れました。これまでの体験内容をまとめた資料「職場体験内容一覧」を作成し、教員との事前打ち合わせや、生徒の事前訪問時にも活用しました。さらに、生徒が希望する活動を追加するなど、充実した体験となるように工夫しました。また、環境ボランティアにインタビューするなど、人との関わりも意識した内容を実施しました。



環境ボランティアにインタビューをしている様子

パートナーの声

エコセンは「誰もがエコを考えられる」場所

私は、2015 年の夏にエコセンで職業体験をしました。実習中の主な活動内容であった館内の展示案内やイベントの手伝いを通して、エコセンで働く職員やエコメイトの方々は、楽しく環境問題について学べる環境づくりや誰もが分かりやすい説明をするための工夫を常に考えている印象を受けました。そういった取り組みが子どもから大人まで幅広い世代の方々が環境問題について学べる空間づくりに繋がっていると思いました。

エコセンのように身近なエコについて誰もが気軽に学ぶことができる環境学習施設がもっと全国に波及することで、環境問題について学ぶ機会が広がり、日常生活の中で「エコを意識できる人」、「エコを実行できる人」の増加に寄与していけるのではないかと思います。



木下 奈美 さん
インターンシップ実習生

PARTNER



いろいろな主体による 環境保全活動への支援と連携 (支援・連携する場)



2-1 地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

2015年度 成果・到達目標

自治会をはじめとする地域の様々な主体が、自主的に環境配慮型コミュニティづくりを行うための支援体制が整っている。

2015年度 結果

- ・地域からの要望に応じて、京エコサポーターが環境学習プログラムを実施するという、センターとしての支援体制は整った。また、センターのHPを更新し、センターとしてどういったプログラムを準備しているかを発信することもできた。
- ・エコ学区チャレンジプログラムで実施した省エネチャレンジプログラムのように、地域住民が自主的に環境配慮型コミュニティを形成できるようになることをねらいとするものがある一方、ねらいそのものが環境に対する意識の啓発程度にとどまっているものもある。今後はそういったプログラムを、意識の啓発にとどまらず具体的な活動につながるような支援の仕組み等を検討していく必要がある。

地域コミュニティにおける環境保全活動支援・連携

地域の団体が環境をテーマに活動を行う際、京エコサポーターを中心に環境学習プログラムを実施することで、地域の環境活動を支援しています。2015年度は、省エネ・ごみの減量に関する講座形式のプログラム、発電の仕組みを体験できるブース出展形式のプログラムを実施しました。その中で、延べ78名の京エコサポーターが、3回の学習会、20回のブース出展を企画・実施することができました（※「エコ学区事業 (P.23)」含む）。



「桃山学区での学習会」実施の様子





2-2 NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

2015年度 成果・到達目標

市内の環境保全活動団体の現状を理解しながら、各主体とセンターが互いに発展するための、支援・連携の方法が構築されている。

2015年度 結果

活動をする上で多くの団体が必要とする「広報」「ファンドレイジング」をテーマとした『広報・ファンドレイジングセミナー ～「共感」を「参加」に!～』を実施した。

また、センターのHPにおいて、各種団体が利用できる支援メニュー（提供できるプログラムやツール等）をまとめた情報を発信し、活用できる体制を整えた。

NPOをはじめとする環境保全活動団体への支援・連携

京都における環境保全活動の活性化をはかることを目的に、『連続セミナー:「共感」を「参加」に!広報・ファンドレイジングセミナー』(計3回)を実施しました。これまでセンターが提供する助成金を得て活動してきた各種環境団体や、センターの環境ボランティア「エコメイト」修了生等を対象に、それぞれの地域等で自立的に環境活動をすすめる上で直面する「人集め」・「資金集め」の課題を解決するためのヒントを提供する場となりました。



セミナー（広報・プロモーション編）の様子

パートナーの声

京エコサポーターによる環境保全活動への支援

「京エコサポーター」として市内各所に出掛け、学習会や出展を行っています。一般市民を対象とした学習会では学習会前後の消費電力を比べて省エネ努力を確認したり、電化製品の消費電力を計ったりします。参加者の「そんなん、知らなかったわー!」、「なるほど!」、「すぐやってみよ!」等の納得の声を聞く度に、「やったー!」と喜びを感じます。

また出展では、手回し発電や自転車発電、ソーラー発電、ソーラークッカー等を体験してもらいます。こちらはもっぱら子どもが中心です。手回し発電で電気を作ることの大変さを体感し、無限の太陽エネルギーの有効利用を体験してもらいます。子どもたちの必死な様子や太陽光で起こした電気でミニトレインを走らせ、喜々として楽しむ様子を見て遣り甲斐を感じます。これらが地球温暖化防止に繋がりに、子や孫の時代に少しでも住みやすい地球になることを願っています。



金澤 良彦 さん
京エコロジーセンター
環境ボランティア





持続可能な地域社会への 提案、情報発信と交流

(発信する場)



3-1 情報発信・広報対策

2015年度 成果・到達目標

センター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で国内外に発信し、交流している。

2015年度 結果

計画的かつ意識的にセンター事業の内容・過程・成果や環境に関する様々な情報を活用しやすい形で発信することが出来た。特に、WEB媒体を活用した広報の効果が上がってきており、ホームページへのアクセス数や来館者の増加など、交流の促進につながっている。国外に向けた情報発信は言語の問題もあり、まだ十分とは言えないが、少し意識して取り組むことが出来た。

図書事業

図書コーナーでは、約7,000点の資料（図書・雑誌・視聴覚資料等）を通じて、環境問題や環境学習に関する情報を発信しています。2015年度の利用状況は、資料の貸出が2,215冊、ビデオ・DVDの利用が1,739人、新規図書利用者カード登録者が156人でした。また、図書コーナーの認知を高めるため、ボランティアによる絵本・紙芝居の読み聞かせを行う「ほん・で・おはなし会」や、除籍資料を市民の方に譲渡する「ほん・で・リング」を開催し、図書コーナーの認知度向上を図りました。



「ほん・で・おはなし会」の様子

エコセン通い帳

環境ボランティアや職員との関わりを通じて、センターの展示やエコへの学びが深まることを目的とした「エコセン通い帳」を運用しています。「チャレンジカード」に書かれたエコなクイズや指令をクリアするとスタンプがもらえ、スタンプが集まるとプレゼントや「エコの達人認定証」がもらえる仕組みです。楽しくエコを学びながら継続的な来館を促すツールとして、リピーター（ファン）の増加につながっています。2015年度は累計で3,500名を超える参加がありました。

・2015年度に通い帳を通じて10回以上センターに通った来館者に発行する「エコの達人認定証」の年間発行部数：51名102枚



チャレンジカードに挑戦している子どもたちの様子

広報・プロモーション

ホームページやブログ、ソーシャルメディア（Facebook、twitter）を連動させ、イベント等は外部のお出かけ情報サイト等も積極的に活用し、情報発信を行っています。また、2015年度は定期的なプレスリリースを意識して行い、地元新聞社をはじめ、様々なメディアにセンターについての記事が掲載されました。

これまでの広報プロモーションでは、イベント事業が中心でしたが、少しずつセンター他事業のPRも意識して行えるようになってきています。

・市政記者クラブ等へのプレスリリース配信…11回 ・新聞社等取材・掲載実績（紙媒体）…12件以上



京都新聞社に掲載された
イベント取材記事

季刊誌『えこせん』

季刊誌『えこせん』を隔月で年6回（毎号3,000部）発行しました。コンセプト「京のくらしと人とエコ」に合わせ、センターの各事業との連動を意識した特集を組むなど、『えこせん』を通じてより魅力的な情報発信ができるよう取り組みました。リニューアルから3年がたち、読者からのお便りも増え、『えこせん』を通じた交流もできるようになってきました。メインターゲットである親子層がよく訪れる市内の施設や大型書店等、新たな配架先も増えました。



2015年度に発行した季刊誌
「えこせん」

発行月	特集1（人物取材）	特集2 季節に合わせたエコライフの提案
No.37（6月号）	建築士 中村文紀さん	あま〜い和菓子と季節の行事を楽しもう
No.38（8月号）	発酵食堂カモシカ 店主・関恵さん	今、あらためて考える 私たちの暮らしとエネルギー
No.39（10月号）	衣料品再生プロジェクト Re:（リコロン） 伊豆蔵直人さん	使ってみませんか？ 風呂敷と手ぬぐい
No.40（12月号）	ごはんぱん工房つづつづ 店主・永田美恵子さん	温めるだけでこの美味しさ 保温調理を活用しよう
No.41（2月号）	理想の森プロジェクト 森綾子さん	知っていますか？ ニッポンの食料自給率
No.42（4月号）	そうげんプロカント オーナー・小泉攝さん	新生活スタート 家族でエコ目標を！

広報物の発行

毎月のイベント情報を掲載した『えこいべ』を館内や市内の公共施設などに配架しているほか、夏休みは小学生向けのイベント情報を掲載した『やってみよう!かぞくでエコ体験』を発行し、市内小学校への配布や私鉄沿線各駅への配架を行いました。また、大型イベントの告知では、市内全域に2週間掲示されるポスターを発行するなど、イベント情報を広く一般に周知するため、イベントごとに合わせた広報物の作成と発行を行っています。

- ・イベント情報紙『えこいべ』：毎月約3,500部発行。
- ・夏休みイベントチラシ『やってみよう!かぞくでエコ体験』：22,200部発行。
市内小学校等24校に配布。
- ・市政広報ポスター：4月、11月に各10,800部発行。



発行したイベント情報紙



3-2 イベントの企画と実施

2015年度 成果・到達目標

環境問題に無関心な人々が関心を持つ、多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施している。そこから、センターの他事業に参加・参画する人々が現れている。

2015年度 結果

乳幼児から環境に関心のある大人まで幅広い対象に、これまでにない多様な切り口のイベントをパートナーシップで実施し、大型イベントは4回、5日間開催し、新たな参加者を獲得した。イベント内容と関連付けた館内ツアーやミニプログラム、紙芝居をボランティアと共に実施したほか、関連図書を図書コーナーで特集するなど、他事業につなげる工夫を行った。

イベント企画・実施

参加者が環境問題の現状を知り、暮らしの中で実践するきっかけとなる、多様な切り口によるイベントをパートナーシップで企画・実施しました。2015年度は、「竹」「布や繊維」「生物多様性」「木のおもちゃと森林」をテーマとした大型イベントを年間で4件開催し、たくさんの方にご参加いただきました。また、今まで多かった無関心者層を意識したイベントだけでなく、次へのステップにつながるような連続イベントも企画し、参加者から好評を得ました。

実施件数：43件（うち、大型イベント開催は4件）、参加者数：8,922名。



「木のおもちゃで遊ぼう！
木育キャラバン in 京都」の様子

* COLUMN *

コラム

市民の目線で環境問題を楽しく解決！ 「分け分け大作戦!エコ・紙・ステーション」

職員が企画するイベント以外にも、職員と環境ボランティアが一緒になって企画する環境ボランティアグループ「イベント部」によるイベントもたくさん開催しました。どなたでも気軽に楽しく参加できる環境紙芝居の読み聞かせや館内ツアーなど、様々な体験型イベントを開催しましたが、その中でも、2015年度の大きな成果は「分け分け大作戦!エコ・紙・ステーション」という新しい企画を創り上げたことでした。京都市全市で「雑がみ」の分別・リサイクルの取り組みが始まり、環境ボランティアから「いまひとつ分別方法がよくわからない」という悩みが出てきました。そこで、「きっと同じような思いを持った人がたくさんいるはず」という思いから、「雑がみ」に関する疑問を調べ始め企画をスタートしました。企画を通して、自分たちの学びにもつながり、参加者からの疑問にも詳しく答えることができました。まさしく、センターが掲げる「市民の目線」で企画することができたイベントとなりました。センターでは、これからもたくさんの方に、エコについて楽しく知ってもらうことで、家庭での実践につながり、エコの輪が広がっていくイベントの開催を目指します。



イベント企画・実施

開催日	タイトル	講師等
4月19日	京エコロジーセンター開館13周年 & アースデイ記念イベント「遊んで学ぼう」竹ひろば	出展協力：7団体（12ブース）
5月16日	エコマートでお買い物 ～環境にやさしい買い物を考えよう！～	環境ボランティアグループ「イベント部」
5月31日	見て！触って！食べて！はちみつのはちみつ	ハニーコンシェルジュ 比嘉彩夏氏
6月7日	みどりのカーテン講習会 ～ヨルガオ・セイウアサガオ・ゴーヤ編～	共同主催：公益財団法人京都市都市緑化協会、京都市（地球温暖化対策室）
6月14日	バラの花びらでジャムづくり	おくだやすひこ氏（おくだばらえん）
6月28日	自然の力で染めてみよう！	上田寿一氏（大原工房）
6月24日	紙芝居屋さんがやってくる！	西本育子氏（志滋海社中）
6月27日	LEDランプで行灯を作ろう！	パナソニック株式会社エコソリューションズ社
7月30日	エコ紙芝居ひろば★全員集合！	環境ボランティアグループ「イベント部」
7月31日	子どもクッキング教室～自分でつくるカンタンごはん～	栄養管理士 鎌田早紀子氏
8月2日	木のイスを作ろう！	京都木材青年経営者協議会
8月3日	京漬物のお話とめか床づくり体験	京都府漬物協同組合青年部会
8月4日	紙すき体験～紙パックから絵はがきづくり～	共同主催：宝酒造株式会社
8月6日	エコ紙芝居ひろば★全員集合！	環境ボランティアグループ「イベント部」
8月8日	『ひらけ～ごま！』のおはなし	株式会社山田製油
8月8日	電車のエコを知ろう！ クイズ de 京阪 & 制服で『ハイ、チーズ』	京阪電気鉄道株式会社
8月9日	人形劇3Rエコシアター『森のたんけんたい』	(有)人形劇団クラルテ
8月10日	葉っぱや草花でしおりづくり	名神深草森の会
8月12日	エコ紙芝居ひろば★全員集合！	環境ボランティアグループ「イベント部」
8月20日	エコ紙芝居ひろば★全員集合！	環境ボランティアグループ「イベント部」
9月8日	からだにやさしい陰陽調和の重ね煮クッキング	養生家庭料理研究家 梅崎和子氏
9月13日	うんこはごちそう ～僕は地球と共に生きている～講演会～	糞土師 伊沢正名氏
9月13日	うんこはごちそう ～僕は地球と共に生きている～野外講座～	糞土師 伊沢正名氏
9月25日	からだにやさしい陰陽調和の重ね煮クッキング	養生家庭料理研究家 梅崎和子氏
10月9日	旬の京野菜でおうちフレンチに挑戦！	料理研究家 杉本節子氏
10月25日	3R推進月間イベント 「布フェス in 京都～布ってこんなにOOだ！」	共同主催：京都市ごみ減量推進会議、出展協力：23団体（32ブース）
11月23日	秋のエコセン映画会『千年の一滴だしょうゆ』	自主上映
11月29日	COP21 開催記念イベント「発見！体験！生きものの環」	出展協力：11団体（18ブース）
12月16日	素材を生かしてひと工夫！季節のお料理教室	料理研究家 力石さち氏
12月19日	分け分け大作戦！エコ・紙・ステーション	環境ボランティアグループ「イベント部」
12月20日	素材を生かしてひと工夫！季節のお料理教室	料理研究家 力石さち氏
11月23日	幸せのおすそ分け、チョコボックスをつくろう！	共同主催：認定NPO法人テラルネッサンス
1月16日	分け分け大作戦！エコ・紙・ステーション	環境ボランティアグループ「イベント部」
1月17日	ていねいに暮らしを創る① 一本の糸から紡ぎだすもの	大石尚子氏
1月24日	茶かぶきでお茶の時間を楽しもう	21お茶のふるさと塾
1月31日	ていねいに暮らしを創る② 命は命で元気になる	関恵氏（発酵食堂カモシカ）
2月6日	おうちで挑戦！毎日食べたい味噌づくり	管理栄養士 鎌田早紀子氏
2月7日	ていねいに暮らしを創る③ 街中自給自足暮らし	畑明宏氏
2月21日	ていねいに暮らしを創る④ はたらきながらまなびあそぶ	モモクリエイティブ
2月26・27日	木のおもちゃで遊ぼう！木育キャラバン in 京都	協力：NPO法人日本グッド・トイ委員会、東京おもちゃ美術館、出展協力：2団体（2ブース）
3月5日	農家さんに学ぼう！おいしいお米のクッキング	(有)かみなか農楽舎
3月6日	分け分け大作戦！エコ・紙・ステーション	環境ボランティアグループ「イベント部」

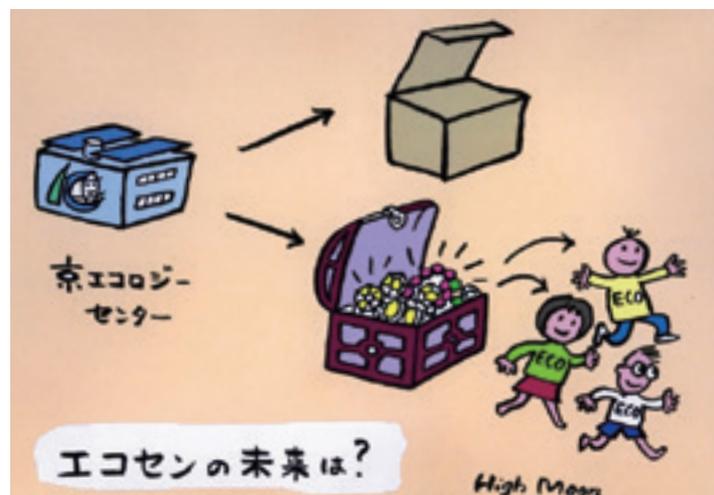


地球温暖化防止にむけて

1997年12月、地球温暖化防止京都会議（COP3）が開催され、世界中の国々から、地球温暖化防止という人類共通の問題解決に向け、各国政府の代表団、NGO、多くの市民が京都に集結しました。それぞれの利害が対立する中、夜を徹した議論の末に生み出されたのが「京都議定書」です。センターもまた、多くの市民の発意の下に、地球温暖化防止のための活動拠点として、市民、事業者、行政、教育機関、NGO等とのたくさんの議論を経て、2002年にCOP3開催記念館として誕生しました。設立に関わった皆様が施設に期待したことは、COP3での議論や、センター設立に向けた議論と同じように、この施設に多くの人が集まって、地球温暖化防止のために一丸となって行動していく起点となることでした。「京都議定書」ではなく、「COP3」を記念したのは、このような思いがあつてこそのことでした。

2015年度を終え、開館から丸14年が経過しました。運営に関わる人々の思いが通じてか、開館以来、単年度で最高の来館者数を記録しました。運営を任された私たちは、ただ闇雲に数字を追い求めるのではなく、地球温暖化に向けたメッセージを来館者にいかにお伝えするかに腐心してきました。来て、ただ楽しかったで終わることなく、何かを学び取っていただき、少しでも日常の行動に変化を生み出していただけよう愚直に考えています。ここまでたくさんの方々にお越しいただけるようになったのも、ただ楽しいだけで終わらない、そこに何かの学びがあることを評価いただけている証だと思っております。2015年12月に、フランスのパリにてCOP21が開催され、京都議定書の次につながるパリ協定が採択されました。パリ協定では、全ての国が参加できる枠組みにすることが重要視されました。各国間の数値目標に差異があることに批判もありますが、全ての国が同じ枠組みの下に地球温暖化防止に向けて進んでいけることは、COP3開催記念館の運営に携わる身としては、非常に共感できるものであります。

パリ協定の議論の過程で、白日の下となった気候変動の非常に厳しい現状を鑑みるに、これまでの経験の積み重ねもさることながら、大きな「変革」をもたらさなければ、地球環境は後戻りできない状況に陥ることが高い確度を持って証明されつつあります。センターはCOP3開催記念館の名に恥じないよう、これからもたくさんの方々と地球温暖化防止に向けて邁進してまいりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。



これまでの5年から、これからの10年へ。

2002年4月に開館したセンターは、2005年に第1期中長期計画、2010年に第2期中長期計画を策定し、そこで示されたビジョン・方向性に基づいて、事業に取り組んできました。

指定管理者である「財団法人京都市環境事業協会」は2014年4月、センターの業務を中核業務にする「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」に変革しました。新しく発足した公益財団法人としては、センターの業務の見直しを含め、今後の事業展開について中長期の事業計画の策定が必要となりました。

そこで、2014年度当初に事業運営委員会の下に総合戦略検討小委員会を立ち上げ、「公益財団法人京都市環境保全活動推進協会」としての2016年度～2025年度事業計画を検討しました。メンバーはこれまでセンターの事業で関係の深い環境NPO、組織運営に精通している学識経験者、団体役員、行政（京都市）などで構成され、幅広い視点からこれからの協会の進むべき方向について、実に16回に及ぶ精力的な議論を重ねました。

その結果、これまでのセンター第2期中長期計画との連続性を踏まえつつ、センターの運営、エコ学区など地域の環境活動支援、今後想定される新たな環境学習施設の運営、国内外の他都市の取り組みとの連携などを含めた、向こう10年間（2016年度～2025年度）のミッション・ビジョン・6つの方向性（地域連携、パートナーシップ、人材育成、世界へ波及、プログラム開発、発信力強化）・戦略を新たに定めることができました。

今後は、中長期事業計画が「絵に描いた餅」にならないよう具体化し、取り巻く情勢の変化に適応しながら、持続可能な地域社会を築くための活動に参加・参画する人を増やし、人與人・様々な団体をつなげていきます。

パートナーの声

これからのエコセンと協会の展望

この2年ほどの間、協会の総合戦略小委員会にかかわらせていただき、エコセンだけでなく、今後の協会の活動の方向についても議論をする機会をいただきました。そこで印象的なことは、これまでの双方の分厚い活動の成果を踏まえながらも、指定管理者としてのエコセンの運営の展開だけではなく、協会としての将来展望をどのように開くのか、そして施設運営との相乗効果をどのように出していくのかを考えたことでした。京都市からすれば施設経営の効率化や外郭団体の自立化は既定の行革方針です。その中で、エコセンと協会の設置趣旨、つまりは存在意義が問われることになり、その理念実現のための戦略的な方向を追求しなければならないのです。具体的には、エコセンで蓄積してきたノウハウを協会の運営経験の中でソーシャル・ビジネス化すること、例えば、施設経営、環境教育、ボランティア教育、NPO・NGOや地域活動の支援、それらに関するコンサルティングや資源提供などが考えられるのですが、こうしたところが、当面、最も期待されているのではないかと思います。



新川 達郎 さん
同志社大学大学院
総合政策科学研究科

PARTNER

入館者数編

入館者数

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
合計	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847	100,701
累計	86,085	169,095	243,305	319,120	388,500	466,479	546,212	626,280	695,161	782,595	878,972	973,518	1,065,365	1,166,066
団体見学（上段：総数、下段：団体数）														
合計	8,794	6,796	4,870	7,217	7,050	7,584	8,850	5,911	6,714	6,026	5,468	6,104	6,091	5,859
	307	234	201	247	191	232	271	213	219	175	194	198	175	183
内	300	127	128	245	193	683	538	628	1,081	701	444	696	740	869
海外		5	10	16	12	26	26	37	40	27	23	25	28	32
エゴ学習（上段：総数、下段：学校数）														
合計	19,597	21,027	11,318	11,716	10,964	11,236	10,817	5,598	4,013	5,219	5,504	4,949	4,354	3,944
	235	256	243	180	182	177	178	85	96	117	111	151	147	132
会議室貸出件数（上段：利用者数、下段：貸出部屋数）														
合計	4,047	4,333	4,895	5,306	5,454	7,167	6,707	5,280	5,432	4,987	4,807	4,430	4,359	4,894
	173	299	409	470	469	589	581	457	459	481	452	430	391	440

館外事業参加者数（上段：総参加者数、下段：件数）

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
合計	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995	6,728	5,865
	27	37	59	107	110	128	142	118	174	141	130	86	81	36

入館者数と館外事業参加者数の合計

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
館内	86,085	83,010	74,210	75,815	69,380	77,979	79,733	80,068	68,881	87,434	96,377	94,546	91,847	100,701
館外	3,657	11,066	15,053	21,446	9,927	16,263	13,428	25,179	15,720	14,188	12,936	9,995	6,728	5,865
合計	89,742	94,076	89,263	97,261	79,307	94,242	93,161	105,247	84,601	101,622	109,313	104,541	98,575	106,566

2015年度 月別入館者数

	2015年度入館者数 (A)													館外利用者数 (B)								利用者総数 年度比較																
	個人や家族での入館者						自治体などの団体見学			小学校単位のエゴ学習				会議室等				入館者数 年度比較				館外利用者数				主催・共催事業				利用者総数 (A) + (B)		利用者総数 年度比較						
	人数		人数		件数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数	
	人数		人数		件数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数		人数			
4月	8,210	7,486	2,252	16	13	1	147	5	0	0	331	10	246	23	7,181	114.3%	6,658	123.3%	5	0	0	5	1	8,215	7,260	113.2%	6,661	123.3%										
5月	7,549	6,306	175	14	115	9	381	12	72	4	472	10	390	33	7,480	100.9%	7,069	106.8%	66	0	0	66	2	7,615	7,899	96.4%	7,452	102.2%										
6月	7,318	6,208	409	12	89	5	632	24	48	2	120	5	358	29	7,182	101.9%	7,071	103.5%	257	172	1	85	2	7,575	7,481	101.3%	7,594	99.7%										
7月	9,613	8,132	240	16	123	7	664	20	60	3	397	14	420	34	8,631	111.4%	9,345	102.9%	329	329	2	0	0	9,942	9,404	105.7%	10,116	98.3%										
8月	11,978	10,832	1,342	56	92	20	768	17	76	4	0	0	378	40	10,670	112.3%	9,961	120.2%	360	360	1	0	0	12,338	11,073	111.4%	10,717	115.1%										
9月	6,770	5,508	182	15	78	4	535	15	38	1	198	2	529	52	6,180	109.5%	7,111	95.2%	2,156	800	4	1,356	1	8,926	7,187	124.2%	8,397	106.3%										
10月	7,459	6,093	970	38	80	6	881	23	74	5	37	12	448	36	6,329	117.9%	7,416	100.6%	1,015	1,015	4	0	0	8,474	7,879	107.6%	8,862	95.6%										
11月	11,667	10,067	1,014	29	43	10	632	25	41	3	514	10	454	37	10,282	113.5%	11,560	100.9%	960	887	7	73	2	12,627	11,188	112.9%	14,575	86.6%										
12月	5,632	4,214	301	12	59	4	434	16	119	4	562	26	422	36	6,211	90.7%	5,219	107.9%	67	67	2	0	0	5,699	6,458	88.2%	5,941	95.9%										
1月	6,307	5,208	309	12	78	7	158	7	43	2	453	14	488	50	5,915	106.6%	5,839	108.0%	168	0	0	168	1	6,475	5,994	108.0%	5,945	108.9%										
2月	11,780	10,381	3,824	14	91	8	254	11	21	2	860	29	285	27	8,212	143.4%	9,948	118.4%	382	346	3	36	2	12,162	8,941	136.0%	10,527	115.5%										
3月	6,418	5,569	84	7	25	5	373	8	27	2	0	0	476	43	7,574	84.7%	7,349	87.3%	100	100	1	0	0	6,518	7,811	83.4%	7,754	84.1%										
計	100,701	86,004	11,102	241	886	86	5,859	183	869	32	3,944	132	4,894	440	91,847	109.6%	94,546	106.5%	5,865	4,076	25	1,789	11	106,566	98,575	108.1%	104,541	101.9%										

ボランティア活動編

環境ボランティア人数

年度	2002年度 1～2期	2003年度 1～3期	2004年度 1～4期	2005年度 3～5期	2006年度 4～6期	2007年度 5～7期	2008年度 6～8期	2009年度 7～9期	2010年度 8～10期	2011年度 9～11期	2012年度 10～12期	2013年度 11～13期	2014年度 12～14期	2015年度 13～15期
エコメイト 登録者数	85名	104名	108名	85名	81名	83名	82名	72名	61名	55名	51名	47名	42名	51名
京エコ サポーター 登録者数				31名	51名	74名	89名	89名	87名	81名	94名	108名	118名	122名

2015年度末にエコメイト13期生が修了し、3年間の任期を終えたエコメイト修了生は合計280名になりました。

エネルギー資源使用量編

水道使用量

	2月13日～ 4月10日	4月11日～ 6月10日	6月13日～ 8月12日	8月13日～ 10月10日	10月11日～ 12月11日	12月11日～ 2月10日
水道使用量 (m)	95	87	102	94	252	135
使用量累計 (m)	95	182	284	378	630	765
料金 (円)	56,559	46,383	57,539	57,519	112,997	54,541

	1月23日～ 3月24日	3月23日～ 5月22日	5月23日～ 7月22日	7月23日～ 9月24日	9月25日～ 11月20日	11月21日～ 1月20日
雨水使用量 (m)	148	143	180	224	191	141
使用量累計 (m)	148	291	471	695	886	1,027

電力量

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
電力使用量 (kWh)	17,116	8,879	10,248	10,915	19,042	30,680	9,178	11,294	22,041	26,070	35,821	28,884	230,166
太陽光発電量-売電量 (kWh)	1,832	1,859	2,743	2,012	2,109	2,269	1,679	1,792	930	917	1,102	1,376	20,618
関西電力 (kWh)	15,284	7,020	7,505	8,903	16,933	28,411	7,499	9,502	21,111	25,153	34,719	27,508	209,548
太陽光発電量の割合 (%)	10.7%	20.9%	26.8%	18.4%	11.1%	7.4%	18.3%	15.9%	4.2%	3.5%	3.1%	4.8%	
料金 (円)	505,892	372,729	363,949	386,311	531,611	717,361	379,188	404,127	591,448	664,338	795,127	677,814	6,389,895

※太陽光発電量内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
太陽光発電量 (kWh)	1,832	1,963	2,846	2,012	2,117	2,269	1,684	1,800	930	930	1,102	1,377	20,860
売電量 (kWh)	0	104.0	103	0	8	0	5	8	0	13	0	1	242
使用量 (kWh)	1,832	1,859	2,743	2,012	2,109	2,269	1,679	1,792	930	917	1,102	1,376	20,618

地域環境活動支援事業

エコ学区に係る学習会等支援業務

京都市との協働により、元学区を単位とする地域コミュニティにおける環境配慮行動（以下、「エコ活動」という。）を促進することにより、ライフスタイルの転換と増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで効果的に実現するため、地域活動にエコの視点を加え、各学区におけるエコ活動が円滑に進むよう、地域に地球温暖化対策をはじめとするエコロジーに関する知識やエコ活動に関する知恵等を提供しました。



緑のカーテン植付式の様子

エコ学区に係る相談窓口業務

センター活動支援室に「エコ学区サポートセンター」を開設し、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した 200 学区に対し、支援物品の企画・調達・配布、学習会等の実施などで地域ぐるみのエコ活動を促進しました。

1 年間で計 300 回を超える学区へのヒアリングやエコ活動の現場取材、地域への直接アプローチを行うなど、ニーズに合わせて迅速に対応しました。

学習会実施

計 46 回実施し、2,516 名参加（大人 1,081 名・子ども 1,435 名）しました。

エコ学区チャレンジプログラム

公募により 5 学区に対し「創エネ」「エコ×防災」など多様な連続プログラムを実施しました。

環境情報の発信

学習会実施時に、季刊誌『えこせん』を配布するとともに、センター事業では普段接点のない層への環境情報の発信を行いました。

京都環境賞のエコ学区部門への対応

京都市とともに、各区役所・支所におけるエコ学区推進賞の選考を行いました。

市民協働発電制度地域コミュニティ版 支援コーディネーター派遣業務

京都市との協働により、地域のコミュニティ組織が主体となり、地域に太陽光発電や小水力発電など再生可能エネルギー利用設備を設置しようとする意欲的な取り組みを支援するため、地域住民の合意形成をはじめ、再生可能エネルギーを活用した発電事業に関する調査や事業化の検討等を行うコーディネーターを 5 地域に 11 回派遣しました。



水力発電機で実験している様子

点から線、そして面へ。広がり深まるエコ学区

京都市では地域活動の中心的な役割を担っている学区に着目し、地域コミュニティにおける「エコ活動」を促進することにより、ライフスタイルの転換と増加傾向にある家庭部門での温室効果ガス排出量削減を地域ぐるみで効果的に実現するため、2011年度から『低炭素のモデル地区「エコ学区」事業』が実施されています。

各行政区のトップランナーである学区が2年にわたって省エネの取り組み・社会実験を行い、地域ごとに特色あるエコ活動が展開されました。2013年度からはエコ学区の市内全学区（222学区）への拡大を図り、当協会が「エコ学区サポートセンター」として支援する役割を担ってきました。2015年1月、晴れて全ての学区がエコ学区となりました。

はじめは各学区長がエコ学区宣言を行い、自治連合会などの地縁組織から各種団体などに少しずつ周知され、支援物品の配布、学習会・環境啓発ブース出展やうちエコ診断の実施などで少しずつ取り組みが広がっていきました。しかしながら、学区は、地域の実情によって様々な課題（自治会加入率の低下、空き家率の増加、安心安全、防災減災、少子高齢化、獣害など）に対する対策を行わなければなりません。中には「エコなんてやってられない」との声もあります。

そのような地域の声を聴きながら、少しずつ地域に入り込み、2013年度からの「種まき」を継続し地盤を固め、3年間でモデル学区を除く196学区のうち110学区にて、学習会実施という小さな花が咲かせることができました。また、連続した取り組みである「エコ学区チャレンジプログラム」が10学区で展開されるなど、少しずつ深みも増えています。

<エコ学区チャレンジプログラムで実施したテーマ>

創エネ・省エネ・エコ×防災・エコなおでかけ・リメイク・もくもく（木質バイオマス活用）



JICA課題別研修「廃棄物管理能力向上（応用、計画・政策編）」

7ヶ国 10名の、それぞれ国で政府や地方行政等で廃棄物管理に関わる研修員を受け入れ、2ヶ月間の研修を行いました。各研修員の国で直面している廃棄物管理に関する課題の解決のヒントとなる講義や視察、実習等を行い、協会の強みとする市民への環境意識啓発や地域コミュニティ等をはじめとした市民参画による環境活動支援のノウハウも研修に盛り込みました。

JICA日系研修「(都市型) 環境教育指導者」

ブラジル、パラグアイより各1名の研修員を受け入れ、約6週間の研修を行いました。それぞれのフィールドで環境教育を実践していくために必要な基礎知識や技術を得ることを目的に、講義や視察、センターでのOJTを通じた環境教育実践を行いました。



プログラム実施の様子

JICA草の根技術協力事業

「低炭素社会実現に向けた人・コミュニティづくりプロジェクト」(マレーシア)

イスカンダル開発地域における低炭素社会づくりに向けた小学校での環境教育の実施と質の向上、セカンダリースクールでの環境教育プログラムの開発と実施、地域コミュニティの住民を巻き込んだ環境保全活動の支援の仕組みづくりをプロジェクトの大きな柱とし、日本に関係者を招聘して行う研修と現地への専門家派遣を行いました。



プロジェクトミーティングの様子

パートナーの声

小さな事から進めていきたい後進国での環境教育

2015年度、センターでJICA日系研修生として、2ヶ月環境教育に関する研修を学びました。

研修の内容は、子ども向けのごみ、水、電気をテーマにしたプログラムの体験などを通じて、環境教育や環境保全活動について学びました。その他、センターで年間2、3回行われる大規模な環境啓発イベントのひとつ、「布フェス in 京都」へ参加し、色んな人々や団体のアイデアや意見を含めることにより、一つのテーマで様々なプログラムを見る事ができ、とても素晴らしいと感じました。

環境問題は、サイエンスや技術的なものだけでなく、子どもをはじめ一般市民にも環境に関する理解を高め、環境保全に関する主体的な取り組みを実践出来る人材を育成していく必要があります。現在、私が勤める学部で、展示やプログラムなどを通じて環境教育や環境保全活動を少しずつ始めています。そのプログラムの一つが、紙のリサイクルです。

学部では、紙のごみが多く、「まずそのごみになる原因を減らそう、ごみになったらメモ用紙としてリユース、最後にリサイクル!」を伝えています。1000キログラムリサイクルすることによって、約14～17本の木が守られ、約900キログラムのCO₂を排出を防ぐことが出来ます。とても小さな事なのですが、この様な活動は学部では初めてです。小さな事からはじめ、環境保全に関する市民の意識を少しずつ高めたいと思っています。



宮崎 雅之 さん

パラグアイ
アスンシオン国立大学
自然科学学部
環境技術センター
(コーディネーター)

PARTNER

海外へ環境教育・環境保全活動を広げるノウハウを

近年、センターの運営等で培った京都での経験をもとに、協会の環境教育・環境保全活動を推進するノウハウを海外にも広げていく事業を展開しています。これまで過去5年間にわたり世界中から研修員の受け入れを行い、環境教育の実践や、市民参加による環境保全活動の進め方、廃棄物の管理・減量などをテーマとした研修を行ってきました。ともすればトップダウンになりがちですが、環境問題の解決には、様々な人を巻き込み、その問題を自分事としてとらえ、そして行動に移していくというそのプロセスが重要であると当協会では考えており、そのようなプロセスを通じて環境活動を進めることの重要性やノウハウを研修に多く盛り込みました。それぞれの研修員によって、京都で得た知見・ノウハウが世界に広がり、様々な環境問題の解決につながる事が期待されます。（*本研修は独立行政法人国際協力機構（JICA）より受託して実施したものです。過去5年間で6コースを実施し、13カ国37名の研修員を受け入れました。）

2015年度からは、京都で行っている環境教育プログラムや、地域コミュニティでの環境保全活動の推進プログラムを、マレーシアに技術移転するプロジェクトを開始しました。低炭素社会づくりにむけた、人づくりとコミュニティづくりを同時に進めるプロジェクトで、京都市及び認定NPO法人気候ネットワークと協働で進めています。学校や地域で環境について考え、行動していくためのプロセスを大切にしながら、プロジェクトを行っています。



講師派遣事業

出前講座・講師派遣

出前講座・講師派遣事業では、セミナーやシンポジウムへ職員を派遣し、環境学習施設運営や市民参画・ボランティアコーディネーションについて講演や事例発表を行いました。また、依頼元の要望にあわせた出前講座やワークショップを企画実施するなど、センターの管理運営業務で培った様々なノウハウを広く発信するとともに、他団体による環境活動を支援しました。2015年度は10件実施しました。



環境省主催「環境教育フェスタ」での先進事例発表の様子

実施日	事業名	主催
6月6日	グリーンカーテン講習会への講師派遣	上烏羽北部いきいき市民活動センター
7月29日	夏休みエコ教室 「わくわく親子エコ工作教室 ～ソーラーメロディハウスをつくろう～」 への講師派遣	京都生協北ブロックほっこりコミュニティ
8月15日	ふるさと創生塾への講師派遣	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会
8月22日 8月29日	京都市環境基本計画改定に係る 市民ワークショップの企画・当日進行	京都市環境政策局環境企画部環境総務課
9月5日	深草まるごとつながりネットワークでの トークセッションでの事例発表	京都市伏見区役所深草支所地域力推進室
2月28日	大東市立歴史民俗資料館 企画展関連事業「かえっこバザール」 への講師派遣	大東市立歴史民俗資料館
2月29日	豊田市環境学習施設への講師派遣	NPO法人とよたエコ人プロジェクト
3月4日	「環境教育フェスタ」 ～ESD(いいね、それなら、できる) を目指して～における事例発表	環境省
3月14日	地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム(SATREPS)国内成果報告会「アジア低炭素社会シナリオの開発とその実践に向けたESD国際交流」、「アジア低炭素社会の実現に向けた教育啓発の取り組み～ESDの観点から～」での事例発表	国立環境研究所、京都大学、岡山大学
3月30日	The 3rd CITC Regional Conference on Climate Change and Sustainable Development: “How to Accelerate Climate Actions in Asia through Capacity Building and Climate Finance”でのパネルディスカッション “Capacity building and awareness raising as key success factors to achieve SDGs and Paris Agreement in Asia”での事例発表及びパネラー参加	タイ温室効果ガス管理機構(TGO)、 気候変動国際研修センター(CITC)

その他事業

森林・山村多面的機能発揮対策事業

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金を受け、京都市右京区嵯峨越畑の森林を活用した、親子向け森林環境教育イベントを2回実施しました。イベントでは、間伐体験や工作の他、間伐材を燃料とした地元のお米や野菜、鹿肉を使った調理などを行いました。森林の現状や、森と人や野生生物との関わりについて、都市部に住む人が体験を通して学ぶと共に、地域の方と交流する機会を作ることができました。



間伐体験の様子

開催日	タイトル / 内容	参加人数
9月6日	ひととき森の楽校イベント ～森のアースオープン作りワークショップ～ 内容：地元の土や石を使った窯作り (エコ学区事業に係る学習会等支援事業として実施)	20名
10月4日	ひととき森の楽校 ～木こり体験&クラフト～ 内容：間伐体験と間伐材や蔓を使った工作、 地元のお米や野菜を使った調理。	14名
11月3日	ひととき森の楽校 ～木こり体験&ジビエ料理に挑戦!～ 内容：間伐体験と薪作り、森と狩猟の話、 地元のお米や野菜とアースオープンを使っの鹿肉の調理。	25名

* COLUMN *

コラム

「中山間地域と街をつなぐ～ひととき森の楽校～」を開催

ひととき森の楽校では、地元の方のご協力を得ながら、3回シリーズのイベントを実施しました。第1回のアースオープン作りでは、地域にあるものを活かすことを大切にしました。生憎の雨模様にもかかわらず、老若男女が協力して、土や石を集め、泥だらけになりながら窯を完成させた時の一体感は忘れられません。第2回では、地元の棚田米や野菜を薪で調理して食べました。第3回では、アースオープンを使って地元で獲れた鹿肉の調理も行いました。燃料はもちろん森の木を薪割したものです。自然の中で、その自然が育んだ恵みを頂くことほど、贅沢なことはありません。究極の地産地消でもあります。環境問題はつながりが見えにくいことで起こっているとも言えます。五感をフル稼働させて体験した「つながり」は、きっと忘れられない原体験となったのではないのでしょうか。



京都教育大学授業

京都教育大学の集中講義「環境教育の実践—環境ファシリテーター入門—（全5日間）」を企画・運営しました。環境教育概論、環境学習プログラムの作り方、プログラム実施のための効果的なコミュニケーションの手法について、講義と実習を通して体系立てて学べる内容としました。最終日には公開演習として、受講生が作成した環境学習プログラムをセンターの来館者に対して実施しました。2015年度は京都教育大学生4名が受講しました。



受講生による環境学習プログラム実践の様子

京都・環境教育ミーティング

「京都・環境教育ミーティング番外編 次へつなぐワークショップ」と題して、ワークショップを開催しました。環境教育の成果・効果をはかる評価の仕組み、自然系環境教育の最先端、ESDやアクティブラーニングと環境教育の関わりなどをテーマに、実行有志から環境教育の成果や課題について話題提供したのち、参加者全員で環境教育は社会を変えたのか、社会を変えられるのかについて議論するなど、環境教育について改めて考える場をつくりました。



参加者全員での議論の様子

電気自動車の普及・啓発のための充電設備管理業務

CO₂の削減と低炭素社会の実現に向けて電気自動車の普及促進を図るため、充電設備の利用で来館した市民に対し、操作方法の説明を行いました。

貸出スペースの活用

センターでは、会議室等の貸し出しを行っており、利用できるスペースは会議室2部屋、視聴覚室（シアター）、リサイクル工房（実習室A）、エコ厨房（実習室B）が各1部屋となっています。貸出スペースの認知度を上げるためにパンフレットや季刊誌『えこせん』等の効果的な広報等に取り組み、利用者数、利用率の向上に取り組みました。

利用回数	利用者数
440回	4,894名

KES（環境マネジメントシステム）の取り組み

2003年2月1日からKES（環境マネジメントシステム）にセンター、京都市ごみ減量推進会議、アジェンダ21フォーラムで取り組んでいます。

基本理念「京エコロジーセンターは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。」の下、2015年度は以下の項目に取り組みました。

取り組み項目

- (1) エネルギーの削減
- (2) 紙の使用量の削減
- (3) 廃棄物の削減
- (4) グリーン購入の推進
- (5) 生物多様性を高める活動



京都市環境保全活動推進協会 事業運営体制

組織図

(2016年3月31日現在)



役員等の状況

(2016年3月31日現在)

役員等の数

- 理事長 … 1人
- 理事 … 7人
- 専務理事 … 1人
- 監事 … 2人
- 評議員 … 12人

評議員会

2回開催 (5月、3月)

理事会

6回開催 (5月、7月、12月、3月に3回)

●パートナーシップで運営される各種委員会の開催

■事業運営委員会

協会が実施する事業に係る方針・計画及び企画・立案・評価等に関し、パートナーシップにより市民等から幅広い意見を求めることを目的に、事業運営委員会を設置しています。

■作業部会

必要に応じて個別案件ごとに「作業部会」を立ち上げます。2015年度は「ボランティア制度検討作業部会」を開催しました。

役員名簿 (敬称略・順不同) (2016年3月31日現在)

役職	氏名	所属・役職
理事長	高月 紘	京都大学名誉教授
専務理事	浅野 和子	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会事務局長
理事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
//	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
//	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
//	花田 真理子	大阪産業大学大学院人間環境学研究科教授
//	久山 喜久雄	フィールドソサイエティー代表
//	水山 光春	京都教育大学教授
//	松浦 卓也	京都市環境政策局地球温暖化対策室担当部長
監事	野村 克章	税理士
//	三宅 英知	京都市環境政策局環境企画部長
評議員	浅利 美鈴	京都大学環境科学センター助教
//	市川 智史	滋賀大学教育総合研究センター教授
//	土山 希美枝	龍谷大学政策学部准教授
//	中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議理事
//	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
//	長屋 博久	有限会社村田堂取締役
//	原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都理事長
//	岡田 寛子	株式会社京都銀行公務部長
//	桑 善子	有限会社思風都代表取締役会長
//	周 璋生	立命館大学政策科学部教授
//	田中 克	京都大学名誉教授
//	下間 健之	京都市環境政策局地球温暖化対策室長

事業運営委員名簿 (敬称略・50音順) (2016年3月31日現在)

氏名	所属
伊東 真吾	一般社団法人市民エネルギー京都
井上 和彦	京のアジェンダ 21 フォーラム
大久保 規子	大阪大学大学院法学研究科
北村 憲治	京エコロジーセンター環境ボランティア
杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民
田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク
高月 紘	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
高橋 肇子	京都市地域女性連合会
中川 雅貴	京都商工会議所産業振興部 まちづくり推進担当
中田 富士男	京都市ごみ減量推進会議
西本 雅則	特定非営利活動法人きょうと NPO センター
原 強	特定非営利活動法人コンシューマーズ京都
久山 喜久雄	フィールドソサイエティー
水山 光春	京都教育大学
宮地 伸	株式会社イオンリテール東近畿カンパニー
八代 康弘	京都市環境政策局ごみ減量推進課
安田 真也	京都市環境政策局地球温暖化対策室
山内 寛	京都市ごみ減量推進会議
山本 照美	京エコロジーセンター環境ボランティア

ボランティア制度検討作業部会員名簿 (敬称略・50音順)

氏名	所属
岩木 啓子	ライフデザイン研究所 F L A P
田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク
筒井 のり子	龍谷大学
村山 修一	京エコロジーセンター環境ボランティア
安田 真也	京都市環境政策局地球温暖化対策室
山本 照美	京エコロジーセンター環境ボランティア

職員名簿 (2016年3月31日現在)

役職	氏名
理事長	高月 紘
事務局長 (兼 総務課課長)	浅野 和子
事業部長 (兼 第 1 課課長)	岩松 洋
事業第 2 課課長	谷内口 友寛
総務課課長補佐	山田 幸司
事業第 1 課課長補佐	遠藤 修作
//	新堀 春輔
事業第 1 課職員	佐崎 由佳
//	白戸 湊子
//	澤田 雄喜
//	杉本 真美
//	吉田 隆真
//	多胡 亮
//	竹内 真道
//	西垣 智恵
//	永島 弘武
事業第 2 課職員	大原 克巳
//	池田 和美
総務課職員	川淵 学
//	畑地 健一

事業課職員 15 人 総務課職員 3 人

協会・エコセンの歩み

		協会の歩み（概要）	京エコロジーセンターの歩み（概要）
西暦	平成	事項	事項
1994	6		京都市一般廃棄物処理基本構想策定 →ごみ問題の学習拠点施設の必要性を位置づけ
1995	7		国連気候変動枠組条約第1回締約国会議（COP1）
1996	8		新京都市環境管理計画策定 → COP 記念センター構想
1997	9		国連気候変動枠組条約第3回締約国会議（COP3 161カ国参加） →京都議定書を採択
1998	10		環境学習・エコロジーセンター（仮称）基本構想策定懇話会を設置
1999	11		環境学習・エコロジーセンター基本計画を策定
2000	12		建設工事着工
			環境学習・エコロジーセンター（仮称） 事業検討委員会・企画委員会を設置 →市民・各種団体・NPO・事業者・教育関係者・行政で構成 （現在：事業運営委員会）
2001	13		
		財団法人京都市環境事業協会設立（2月）	
2002	14	京エコロジーセンターの運営開始（4月）	京エコロジーセンター開館（4月）
2005	17		京都議定書発効（2月16日） 京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日） 京エコロジーセンター中長期計画を策定
2006	18	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第1期）	
2009	21	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第2期）	
2011	23		京エコロジーセンター第2期中長期計画策定（3月） →2015年度事業プロジェクト到達点を明記 改正京都市地球温暖化対策条例施行（4月1日） →温室効果ガス総排出量の削減目標を数値化 2020年 25%削減、2030年 40%削減（1990年比）
2012	24		京エコロジーセンター開館10周年（4月21日）
2013	25	京エコロジーセンター指定管理者による運営・管理開始（第3期）	
2014	26	公益財団法人京都市環境保全活動推進協会に改称（4月1日）	京エコロジーセンターの開館以来の来館者が100万人を達成（7月18日）
2015	27	中長期事業計画策定	京エコロジーセンターの年間の来館者が初めて10万人を達成（3月28日） 国連気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）にて パリ協定採択

インフォメーション

本報告書に掲載した情報以外にも様々な情報を発信しています。



●京エコロジーセンター WEB サイト
<http://www.miyako-eco.jp/>
 ブログもぜひご覧ください
<http://www.miyako-eco.jp/blog/>



●京エコロジーセンター携帯サイト
<http://www.miyako-eco.jp/m/>



●京エコロジーセンター Facebook
<http://www.facebook.com/miyakoeco>

●京エコロジーセンター Twitter
 @miyako_eco

私たちが一緒にできることがありましたら、 ぜひ、ご相談ください。

公益財団法人京都市環境保全活動推進協会は、京エコロジーセンターの管理・運営をはじめとする事業を通し、これまで様々な経験やノウハウを蓄積してきました。それら積み重ねとスタッフそれぞれのスキルを活かして、当協会は皆様の環境学習・環境保全活動に関する多様なニーズにお応えします。



当協会は経験豊富な講師の派遣事業を行っています。環境を切り口にした講座やワークショップのほか、セミナーやシンポジウム等に職員を派遣し、環境学習・環境保全活動の場づくりのお手伝いをします。



当協会の事業経験・ノウハウを活かしたコンサルテーションも行っています。環境学習施設の運営や展示の開発、環境団体等の市民活動団体の支援やネットワーク化、ボランティア制度をはじめとする市民参画の仕組みづくり等、対応できる内容は多岐にわたります。



共に持続可能な社会を
創りましょう!



公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会 ホームページ開設

新たにホームページを開設しました。
様々な情報発信をホームページから行っています。
ぜひ、アクセスしてみてください。

URL : <https://keaa.or.jp>





公益財団法人京都市環境保全活動推進協会

〒612-0031 京都市伏見区深草池ノ内町13
TEL.075(641)0911 FAX.075(641)0912



- 用紙:適切に管理された森林の木材を利用したFSC®認証用紙
- インキ:植物油インキ
- 印刷:有害な廃液を排出しない水なし印刷

発行:公益財団法人京都市環境保全活動推進協会
発行: 2016年9月